新春インタビュー／東洋精器工業㈱　節目の年を迎えこれからも信頼される企業として

創業75周年。感謝の気持ちを忘れずに

キーワードは“軽労化・省力化・安全”

足回り機器のサプライヤー、東洋精器工業㈱（兵庫県宝塚市）は20年8月、阿瀬正浩代表取締役社長が死去したことにともない、トップ人事を行った。後任の代表取締役社長には、故阿瀬氏の実姉である馬杉ゆかり氏が着任し、同社の事業運営を継承する。また故阿瀬氏夫人の阿瀬亜希氏は同社代表取締役（グループ会社の㈱東洋精工代表取締役社長を兼務）として経営に携わる。本紙では今回、両氏にインタビューし、21年度事業の見通しと今後の展望について話を聞いた。（横野　正義）

東洋精器工業 株式会社　阿瀬亜希 代表

馬杉ゆかり 社長

――2020年8月1日付で社長に就任されました。前社長の阿瀬正浩氏が急逝されてのことで、大変な状況だったと思います。

馬杉社長「それまで副社長の立場から事業運営のサポートを行ってきていましたが、阿瀬前社長の死去は急なことで予測もしていませんでした。ただそのような中でお取引様、お客様、社員の皆さんから温かい言葉をいただいたことが励みとなっています。

実は、当社に46年間勤めた社員の方が先般お亡くなりになったのですが、その方がご生前、後輩社員の皆さんに『東洋精器は良い会社だよ』、そうおっしゃっていただいたということをお聞きしました。ご自身の人生を振り返ったときにそのように言っていただけたということに、本当に感謝の言葉しかありません。

またわたくしの父である、前々社長で前会長の阿瀬正治は当社創業60周年を迎えた当時、全国6カ所に研修センターを配置し活用していただくことで皆様のお役に立ちたいと考え計画し、それを実現させて参りました。さらに亡くなる前にも『自分が会長職を引退したら、タイヤ業界のためにご恩返しがしたい』という強い気持ちを持っておりました。

先輩社員の言葉や前会長の考えに触れ、わたくし自身もその遺志を継ぎ、微力ですがタイヤ業界、お客様のためにできることにしっかりと取り組み、ご恩返しをしたいと強く決意しています。

阿瀬前社長の時代に東日本大震災が起きました。そのときの経験から、予測不能な自然災害が発生したときに研修センターは社員や地域の皆さんの緊急避難所として活用できるのではないかと、阿瀬前社長は考えていました。そこで研修センターには一般的な基準を大幅に上回る高い強度の耐震設計を採用し建設してきています。阿瀬前社長のそのような考え方も、これからの事業の根本として引き継いで取り組んでいきたいと思っています」

――これまでの事業の推移を見て、東洋精器の強みとはどういうところにあると分析していますか。

馬杉「先ほど触れましたが、当社は全国13カ所ある拠点のうち6カ所に研修センターを配置しています。ここをご利用いただくお客様に豊富なカリキュラムをご用意し、お客様のニーズに沿ったトレーニングメニューを行ってきています。また、セールスエンジニアとしての技能スキルのアップや知識習得の機会ともなっています。リピート率も非常に高く、ご利用いただいた多くのお客様から大変ご好評をいただいています。全国6カ所で質の高い研修を行うことができるというのは、当社独自の強みだと考えています。

また当社では、お客様の困りごとをどうしたら解消することができるだろうか――そういう視点で製品の企画・開発に力を入れ取り組んでいます。先日、ホイールバランス作業時に使用する『ウェイトセッター　ぺた2（ぺたぺた）』を新発売しましたが、これもその一環の製品です。作業時間を短縮し、誰でも均一な作業を実現するものであり、作業を行う皆様の作業ストレスを軽減するものです。

このようなお客様のお役に立てるような製品、困りごとを製品開発にダイレクトにフィードバックすることで迅速に対応し製品化できることも当社の強みの一つではないでしょうか」

阿瀬代表「前会長も前社長も『人（ひと）が大切だ』と常々申していましたように、当社は人と人との繋がりが強い企業風土だと思っています。この部分を今後さらに強化して、若い世代の社員の皆さんが新しい人たちとの繋がりをもっと作っていくことができるよう、会社としてサポートしていきたいと考えます」

基本は現場。見て、声を聞く

――20年度の事業環境を振り返って。

馬杉「上期はやはりコロナの影響を受け厳しい状況で推移しました。一方で下期は明るい兆しが見えてきつつあります。当社は2021年、創業75周年という節目の年を迎えます。20年はそれに備える年ということで、従来の製品ラインアップを大幅に見直し、〝軽労化・省力化・安全〟をキーワードに開発した機材を多数、追加致しました。

〝軽労化・省力化・安全〟対策の新製品を1年間を通じて次から次へと発表し、タイヤ業界で当社への注目度を上げて、その勢いで21年、創業75周年に突入しよう――そういう青写真を描いておりました。当初、これら新製品を研修センターでお客様にお披露目していく計画でしたが、コロナの影響でそれを果たすことができませんでした。

新製品を実際に操作しご覧いただくことはなかなかむずかしい状況でしたので、10数種類の新製品それぞれのチラシを自作しお客様に配布するという地道な営業活動をずっと続けてきました。ウィズコロナの時代にマッチしたやり方で訴求してきたつもりです」

阿瀬「当社の経営体制が変わったことで、現場の取り組みも大きく変わってきています。それまでは本部主導で動いていました。本部の指示に合わせ現場が動くというスタイルから、自分たちはどう動くべきかを考え実行する、そのような非常にアクティブなスタイルに変わってきています。先ほど当社の強みとして人と人との繋がりを大切にしていることを挙げましたが、それとも密接にリンクしているように思えます。

顧客満足の向上に引き続き取り組んできており、それには良い製品を市場に投入していかなくてはなりません。顧客満足が向上しなければ、その担当者もご評価いただけません。そのような点から、お客様を直接担当する社員の満足度を上げる仕組み、制度というものを確立しなくてはならないと考えます」

――21年度の事業計画における重要方針とは。

馬杉「21年度は創業75周年という非常に大事な年となります。現在のコロナがどのようになっているかわかりませんが、会社として社員の健康を第一に考え、引き続き万全な予防対策を推進していく必要があります。その上で自社の業務の効率化を図っていく。併せて社員の満足度を上げられるよう、当社として職場環境の向上に取り組みます。

設備投資に対する考え方も同様で、抑えるところは抑える一方で、掛けるべきところにはしっかりと投資をして、仕事の効率化を図っていきます。また会社組織についても、やや複雑化している部門・部署がありますので、意思の伝達がスムーズに進むような、組織のスリム化を目指していこうと思います。

創業75周年ということで、お客様への感謝の気持ちを形に表すことができる施策を展開したいと考えています。具体的には検討しているさなかですが、メリハリのある、思い切った利益還元策を実施できないか。お客様に喜んでいただける施策を実現したいと思っています。〝軽労化・省力化・安全〟対策の機材開発にさらに力を入れて取り組み、直面する課題の解決を図って参ります」

――向こう3～5年後、東洋精器のありたい姿とはどのようなものでしょうか。中期的な展望を。

馬杉「若手人材がしっかりと育ち力をつけており、それぞれの部署が有機的に機能する。そんな会社となっているよう、その礎を築かなければいけないと思っています。タイヤ業界に〝軽労化・省力化・安全〟対策をさらに進められる機器を今後も積極的に投入し、お客様が悩まれている人手不足の問題解消のお役に立ちたい――このテーマに継続して取り組んでいく考えです。新製品の開発に注力し市場にご提供することで、業界全体を活気あるものにしたいですね」

阿瀬「当社に長く勤めていただいている社員の皆さん、新しく入って来られた皆さんにも、働きやすい会社であるようにしていきたい。創業75周年を迎え、お取引先様、お客様をはじめ、社員の皆さんには感謝の気持ちしかありません。なにがしかの形で、それをお伝えすることができれば良いのですが、3年後、あるいは5年後も皆が楽しく働くことができて、笑顔でいられる会社になっていたいと思います」

――21年の抱負をお聞かせください。

馬杉「繰り返しとなりますが、2021年は創業75周年という節目を迎えます。皆様から信頼される企業として、これからもしっかりと事業運営に取り組んで参ります。そのためにも、まずは現場には足繁く通い、現場を見て現場の声を聞こうと思っています」

阿瀬「新製品の開発に女性の目線からアプローチしていくことが、これからはより重要なのではないかと考えています。そういう意味からわたくしも現場に入り、実際に機材を操作するなど、新たな取り組み方法でチャレンジしていきたいと思います」